



TITLE:

<展評・書評>「1820～1920年、ベルリンにおけるファン・エイク兄弟の《ゲントの祭壇画》」展:ベルリン、絵画館、2014年9月4日～2015年3月29日

AUTHOR(S):

石田, 友里

CITATION:

石田, 友里. <展評・書評>「1820～1920年、ベルリンにおけるファン・エイク兄弟の《ゲントの祭壇画》」展:ベルリン、絵画館、2014年9月4日～2015年3月29日. ディアファネース--芸術と思想 2015, 2: 177-181

ISSUE DATE:

2015-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216990>

RIGHT:

許諾条件により、本文ファイルには公開していません(画像).

「1820～1920年、ベルリンにおけるファン・エイク兄弟の《ゲントの祭壇画》」展

ベルリン、絵画館、2014年9月4日～2015年3月29日

石田 友里

ゲントの聖バーフ大聖堂のファン・エイク兄弟による《ゲントの祭壇画》が、初期ネーデルラント絵画の傑作の1つであることはよく知られている。2012年からはゲントにおいて大規模な保存修復プロジェクトが進められており、同祭壇画は1432年の完成より600年近く経過した今なお、更なる注目を集めている*¹。2014年も、ゲントのカルメル修道院で続く特別展に加え、9月には国際研究会が開催されるなど《ゲントの祭壇画》について引き続き活発な研究活動がうかがえた*²。

壮大な保存修復プロジェクトの一方で、2014年9月からベルリンの絵画館では「1820～1920年、ベルリンにおけるファン・エイク兄弟の《ゲントの祭壇画》」展が静かに行われていた*³。第一次世界大戦開戦から100年目となる2014年に開催されたこの小さな展覧会は、祭壇画の一部が購入によりベルリンの王立コレクションとなり、戦後のヴェル

*¹ 2012年10月から2017年10月までの約5年間、ベルギー王立文化財研究所（IRPA-KIK）を中心に保存修復プロジェクトが計画され、ゲント美術館（MSK）の特別室にて作業が行われている。また、調査で得られた資料は以下のウェブサイトで公開されている。*Closer to Van Eyck: Rediscovering the Ghent Altarpiece*. <<http://clostertovaneyck.kikirpa.be/#intro>> (2015年1月29日)。

*² A. Born and M. P. J. Martens (eds.), *Het Lam Gods Ont(k)leed!*, exh. cat., Ghent, Caermersklooster, 2012-2017. 「《ゲントの祭壇画》国際研究日（Ghent Altarpiece International Study Day）」ゲント、アウラ・アカデミカ、2014年9月10日開催。

*³ 以下のドイツ語と英語による図録が刊行されている。S. Kemperdick and J. Rößler (eds.), *Der Genter Altar der Brüder van Eyck: Geschichte und Würdigung/ The Ghent Altarpiece by the Brothers Van Eyck: History and Appraisal*, exh. cat., Berlin, Gemäldegalerie der Staatlichen Museen, 2014-2015.

サイユ条約によってベルギーへ返還されるまでの100年間に注目し、これまであまり語られてこなかった大戦前後の祭壇画をめぐる動向に光をあてるものだった。以下、その中で評者の印象に残った事柄を取り上げ、本展の紹介としたい。

ゲント市参事会員のヨース・フェイトとその妻エリザベト・ボルルートによって洗礼者ヨハネ教会（聖バーフ大聖堂の前身）のフェイト家礼拝堂に捧げられた《ゲントの祭壇画》は、中央パネル4枚、翼パネル8枚の計12枚からなっており、開閉式の翼パネルの内外を合わせると全20面が描かれた多翼祭壇画である。開翼時に見える中央パネルには、上段左から「聖母マリア」「聖三位一体」「洗礼者ヨハネ」、下段には「子羊の礼拝」が配されている*⁴。両側の翼パネル上段には「アダム」「合唱の天使」「奏楽の天使」「イヴ」、下段には「正しき裁き人」「キリストの騎士」「聖隠修士」「聖巡礼者」が並ぶ*⁵。本展では、ファン・エイク兄弟のオリジナルのかわりに、モノクロ写真12点（かつてベルリンに所蔵されていた翼パネル6枚の両面を20世紀初めに撮影したネガから現像）と、ベルリンの絵画館が所蔵する16世紀と19世紀の模写6点が組み合わせられ（翼パネル2点は両面が描かれている）、原寸大の祭壇画が再現されていた。この一見モザイク状の展示から、ベルリンにおける《ゲントの祭壇画》の波乱に満ちた歴史をうかがうことができた*⁶。

《ゲントの祭壇画》のベルリンにおける歴史は、1821年、プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世が「アダム」と「イヴ」の2枚を除く《ゲントの祭壇画》の翼パネル6枚を、英国商人のエドワード・ソリーのコレクションから購入したことからはじまる。この翼パネル6枚は、1816年に美術商L. J. ニューウェンハイスが聖バーフ大聖堂から買い取り、1818年に収集家でもあったソリーへ売却したものだった*⁷。当時、パリのルーヴルに匹敵するような一大美術館をプロイセンの首都にも建設することを目指していた国王は、作品購入によるコレクションの充実に力を注いでいた*⁸。ソリーの絵画コレクシ

*⁴ 各パネルの主題名は図録の表記に従う。

*⁵ 閉翼時の上段の翼パネル4枚には左から「預言者ゼカリヤと大天使ガブリエル」「エリュトライのシビュラと街の風景」「クマエのシビュラと洗面器と水差し」「預言者ミカと受胎告知のマリア」が、下段の4枚には「寄進者ヨース・フェイト」「洗礼者ヨハネ像」「福音書記者ヨハネ像」「寄進者エリザベト・ボルルート」が描かれている。また、後述のように1934年の盗難で消失した「正しき裁き人」の部分には、現在模写が用いられている（注15）。

*⁶ 図録の以下の論考で、ベルリンにおける祭壇画の歴史が詳しく論じられている。S. Kemperdick and J. Röbler, "The Ghent Altarpiece in Berlin, 1820-1920: The History of a Rediscovery," in S. Kemperdick and J. Röbler (eds.), op. cit., pp. 70-99.; J. Röbler, "Between the Fronts: The Ghent Altarpiece in World War I and the Treaty of Versailles," in S. Kemperdick and J. Röbler (eds.), op. cit., pp. 100-111.

*⁷ ブリュッセルを本店に、ロンドンやパリ支店においても国際的に活躍した美術商ニューウェンハイスについては以下を参照。E. Hinterding and F. Horsch, "A Small but Choice Collection: The Art Gallery of King Willem II of the Netherlands (1792-1849)," in *Simiolus*, vol. 19, no. 1/2, 1989, pp.4-122.

*⁸ ベルリンの美術館の揺籃期については以下を参照。Ch. M. Vogtherr, "Das Königliche Museum zu Berlin: Planungen und Konzeption des ersten Berliner Kunstmuseums," in *Jahrbuch der Berliner Museen*, vol. 39, 1997.

ヨン 3000 点の総額のうち、12 パーセントをも占める非常に高額な見積額がつけられた《ゲントの祭壇画》の翼パネルは、収集の際にとりわけ重要視された作品だったことがわかる^{*9}。

この祭壇画が本来の設置場所と考えられている聖バーフ大聖堂のフェイト家礼拝堂を離れたのは、19 世紀が初めてのことでない。1566 年には、低地地方を席卷したイコノクラスムから逃れるために設置場所から取り外され、大聖堂の塔の中へ一時避難させられている。また、1794 年にはフランス軍によって中央パネル 4 枚がパリへ持ち去られており、1815 年のナポレオンの失墜までルーヴルに留め置かれたのち、翌年ゲントの大聖堂に返還された。このように、祭壇画がたどってきた破壊と略奪の歴史を鑑みた時、ベルリンの所蔵は穏当な手続きの上に実現したものと言える。

1830 年、現在絵画館が属するベルリン国立博物館群（SMB）の前身となる、ベルリン王立美術館が開館した。プロイセン国王の寄贈でコレクションの中核となっていた《ゲントの祭壇画》の翼パネル 6 枚も、シンケルが設計した新古典主義建築の 2 階奥、西側の第 1 室にその他の北方絵画とともに展示され、イタリア絵画の展示室と対置された。王立美術館の初代館長グスタフ・フリードリヒ・ワーゲンを筆頭に、ベルリンは一躍初期ネーデルラント絵画研究の中心となり、全 14 巻の『初期ネーデルラント絵画』を著すマックス・フリートレンダーの登場を準備することとなる^{*10}。

また、王立美術館開館の数年前には、本展で展示された計 6 点の模写パネル、1558 年のミヒール・コクシーによる「聖三位一体」と「子羊の礼拝」、さらに 1824 年以降カール・シュルツによって制作された「聖母マリア」「洗礼者ヨハネ」「アダム」「イヴ」が、ベルリンの祭壇画の欠けた部分を補うようにして集められている^{*11}。作品の展示方法には徐々に変更が加えられ、本展に出品されたカール・ベネヴィッツ・フォン・ルーフェン（子）による 1880 年頃の展示室内を描いた絵画からは、コクシーの「子羊の礼拝」とオリジナルの翼パネル 6 枚がともに展示されている様子が見て取れた。さらに 1894 年には、翼パネルの両面を展示するために翼パネルの内と外の面が切り離されて、当初の 6 枚のパ

.....
*9 カール・フリードリヒ・シンケルによる見積もりで、《ゲントの祭壇画》翼パネルは 60,000 ターレルだった。対して、ソリーのコレクションの総額は 500,000 ターレル。S. Kemperdick and J. Röbner (eds.), op. cit., p. 78.

*10 M. J. Friedländer, *Die altniederländische Malerei*, 14 vols., Berlin/ Leiden, 1924-37.

*11 S. Kemperdick and J. Röbner (eds.), op. cit., p. 84. スペインのフィリップ 2 世の依頼で制作されたコクシーの模写は、ナポレオン率いるフランス軍によってスペインから持ち去られた後、パネル別に売却された。ミュンヘン（1820 年、「聖母マリア」「洗礼者ヨハネ」）、ベルリン（1823 年、「聖三位一体」「子羊の礼拝」）、ゲント（1861 年、翼パネル 6 枚）へ所蔵されたが、近年ルーヴェンのミュージアム M で行われた展覧会のために約 200 年ぶりに集められた。K. Jonckheere (ed.), *Michiel Coxie: De Vlaamse Rafaël*, exh. cat., Leuven, M-Museum, 2013-2014.

ネルは12枚のパネルに分けられるようになった。

このように、第一次世界大戦前のベルリンでは、オリジナルと模写の組み合わせによる《ゲントの祭壇画》が展示され、それはコレクションと美術史研究の中核となっていた。一方、本来の設置場所であるゲントの聖バーフ大聖堂でも、オリジナルの中央パネル4枚を中心に、コクシーによる翼パネルの模写と、ヴィクトール・ラギエによる皮衣を着た「アダム」と「イヴ」の模写で構成された《ゲントの祭壇画》が設置されていた^{*12}。しかし、ともにオリジナルのパネルを含む2つの祭壇画がドイツとベルギーに並存した状況は、第一次世界大戦後に一変することとなる。すなわち、1919年のヴェルサイユ条約第247条で、ファン・エイク兄弟の《ゲントの祭壇画》の翼パネル6枚は、ミュンヘンとベルリンに所蔵されていたディルク・パウツの《聖餐の秘蹟の祭壇画》の翼パネル4枚とともに、ベルギーへの返還が求められたのである。それは、中立国ベルギーへのドイツ軍の侵攻と、ルーヴェンの大学図書館をはじめとした文化財破壊に対する賠償だった。

この措置に対して、従来これらの傑作に親しんできたドイツ国内において反対運動が巻き起こる。中でも、当時ベルリンの王立美術館総館長だったヴィルヘルム・フォン・ボーデの立ち位置は、とりわけ注目に価する。法律家でもあったボーデは、敗戦国からの文化財押収を禁じた1907年のハーグ条約第56条を引いて、ヴェルサイユ条約の措置に反対の姿勢を貫いた。また、ボーデは第一次世界大戦の西部戦線における「芸術保護(Kunstschutz)」計画をはやくから支持し、戦時下の文化財保護を訴えていた一人でもあった^{*13}。しかし、その活動はドイツ軍の戦闘行為への批判を回避するための隠れ蓑とも、保護という名目の略奪とも受け取られる両義性をはらむものだった。最終的に決定は覆されることなく、ヴェルサイユ条約の取り決めは現実のものとなり、《ゲントの祭壇画》は1920年にベルギーで再び1つの作品として展示されることとなった^{*14}。以上、簡単に本展を通覧したが、その後も《ゲントの祭壇画》は様々な事件や戦禍を経験し、現在に至っていることを言い添えておく必要があるだろう^{*15}。

折しも、2014年は第一次世界大戦開戦から100年という節目であり、ベルリン国立博物館群では「1914年、発端、世界の崩壊(1914. Aufbruch. Weltbruch.)」をテーマと

.....
^{*12} S. Kemperdick and J. Röbler (eds.), op. cit., p. 85. 1861年、オリジナルの「アダム」と「イヴ」は、聖バーフ大聖堂がコクシーの模写を購入する際、援助を行ったベルギー政府に譲渡された。そのため、大聖堂設置用として裸体像に変更を加えた模写をラギエが制作した。

^{*13} S. Kemperdick and J. Röbler (eds.), op. cit., pp. 102-104.

^{*14} S. Kemperdick and J. Röbler (eds.), op. cit., p. 107.

^{*15} 1934年、翼パネル「正しき裁き人」「洗礼者ヨハネ」が盗まれるという事件が発生した。「洗礼者ヨハネ」は後に発見されたが、「正しき裁き人」は消失した。また、1940年にはナチス・ドイツによって祭壇画は略奪されたが、その後連合軍部隊のモニュメンツメンによって発見・保護された。A. Born and M. P. J. Martens (eds.), op. cit., pp. 71-79.

して、20 世紀最初のカタストロフを再考する様々な企画・展示が行われた^{* 16}。その一翼を担っていた本展は、《ゲントの祭壇画》がくぐり抜けてきた破壊と償いの歴史を呼び覚ますものだった。その点で、世界の紛争で人命はもちろん、文化財も危機に晒され続けている現在、今一度振り返るべき論点を提起していたと言えるだろう。この記念碑的な作品をめぐるのは、今後も新たな観点から研究の展開がまたれるところである。

展示風景（石田友里撮影、2014 年 10 月 4 日）

.....
 * 16 この企画の関連論集は以下を参照。P. Winter and J. Grabowski (eds.), *Zum Kriegsdienst einberufen: Die Königlichen Museen zu Berlin und der Erste Weltkrieg*, Cologne/ Weimer/ Vienna, 2014. また、2014 年 9 月 18 日から 20 日にはベルリンで国際シンポジウム「マルスとミュージアム 第一次世界大戦とヨーロッパのミュージアム (Mars & Museum: Europäische Museen im Ersten Weltkrieg)」が開かれた。